



第368号

2017年 5月

〒461-0004
 名古屋市東区葵2丁目6-35
 カトリック名古屋教区広報委員会
 「教区ニュース」編集部
 電話 (052) 935-2223
 FAX (052) 935-2254
 印刷所 株式会社 荒川印刷
 毎月第1日曜日発行

5月7日 世界召命祈願の日
 神は、すべての人が誠実に自分の生涯を送るよう招いています。ある人は、さまざまな職場で働く人として、また夫、妻、父、母として、そしてある人は、神と人とに仕える司祭、修道者となるように招かれています。自分に対する神の恵みを祈りつつ探していくことが大切です。

5月21日世界広報の日(献金)
 「世界広報の日」は、この福音宣教の分野の中でも特に新聞、雑誌、テレビ、ラジオ、映画、インターネットなどの広報媒体を用いて行う宣教について、教会全体で考え、反省し、祈り、献金を捧げる日です。

教区ホームページ

福音のひびき

5月の説教者

7日	復活節第4主日	島袋 幹男 (押切教会)
14日	復活節第5主日	マーティン・アクエティ・デマス (南山教会)
21日	復活節第6主日	山野 聖嗣 (港教会)
28日	主の昇天	バルン・テトホール (福井教会)

助祭叙階の喜び！ 金銀祝の喜び！ 名古屋教区 皆の喜び！



司祭、修道者、奉獻生 活者の金銀祝を祝う集いが3月20日、布池教会で開かれた。また、ミサの中で終身助祭の叙階式が荘厳に執り行われた。聖堂は参列者で満席だった。

15人の侍者と3人の終身助祭、30人の司祭団に続いて、野村名誉司教、松浦司教の入室でミサが始まった。

助祭叙階式の儀をばさむミサが滞りなく執り行われると、最後に金銀祝を迎えた司祭、修道者、奉獻生活者に花一輪が手渡された。代表してアーノルド・ブルム神父(神言会)があいさつに立った。「新助祭が生まれたこと、このように多くの人たちが共に祝えることは本当に喜びです。本堂にありがとうございませした。神様にいろいろ支えてもらい、50年が過ぎることができました。司

祭職に関して思い起こすと、言葉にならないというか、皆に言えることは愛そのものです。愛を残すことが第一の目標。うちの方言はオランダ語。ドイツ人ですからドイツ語もできます。英語、ポルトガル語もできます。でも、何でも中途半端。そんな中、愛を持ってこれからお互いに奉仕しましょう」と、笑いを誘って感謝の言葉を述べた。

松浦司教が信徒たちに向かって、「金祝の方。50年以上の方はいませんか」と問いかけると多くの手が挙がり、「ワアッ！」という歓声と大きな拍手が送られた。

司教が祭壇後方にいる侍者の子どもたちに向かって、「子どもたちも後に続いて司祭やシスターになってね」と呼びかけると、賛同の拍手が沸き起こった。

「金」50年・「銀」25年 感謝のメッセージ

今年、金銀祝を迎えられる司祭、修道者、奉獻生活者当日のパンフレットからのメッセージの一部を抜粋して紹介します。

金祝
 アーノルド・ブルム神父
 「人々の間で兄弟愛と喜びのしるしになりなさい」というテゼの言葉を自分のモットーにして修道者として、また司祭として50年間「マイウエー」を生きてきました。神様をはじめ皆さんにつなぐ私を認め、受け入れ、ある時は耐え忍び、恵みにしてくださったことに感謝する次第です。

金祝
 シスター湯沢 昌子
 (聖霊奉侍布教修道女会)
 神様の慈しみに支えられてきたながらの誓願生活50年。この間すべては名古屋教区でお世話になりました。長い修道生活の歩みを通してエコーのように心深く浮かぶことは「出来事に無駄はない」という思いです。それらの出来事によって自分の限界、小ささを自覚させていただきました。そして祈ることを促されました。

金祝
 シスター谷口 涼子
 (純心聖母会)
 私が修道生活を初めて50年、人並みに悩み、挫折も経験した。そして今この節目に当たって思う事は、過ぎ去ったすべての事が「恵み」だったこと。御父に分に過ぎた慈しみを頂いたのだと感謝と喜びをもって過ごしていきたくと思う。教会、修道会、家族、沢山の方々に愛され、守られ、導かれてきたことを心から感謝している。

理由のひとつに、「教会の中で助祭的な奉仕をしている人たちがたくさんいるが、その中から終身助祭に叙階されることによって、教会で奉仕しているすべての人たちの力づけ、より神様の働きに力がかかるといふ大きな役割がある」と続けた。早川和彦さんは小神学校から10年間神学生として生活をしたが、結局司

祭の道を選ばず、41年間カトリック学校で教師として働いてきた。教会でもさまざまな奉仕に従事した。司教は「これまでの歩みが彼の召命だったと思います」と述べた。そして、早川さんに助祭の三つの役割を確認した。一つは、神のことは告げ、教える任務。二つ目は人々を聖化する役割。三つ目は奉仕の役

銀祝
 ボグスワフ・ノヴァク神父
 司祭職を25年間生きて

割。「じつは、これこそが助祭の秘跡の役割。この世界で苦しむ人、貧しい人、神を求めている人、その人たちに奉仕するのです」と力を込めた。

聖体拝領後、早川新助祭に松浦司教より花束が渡された。早川助祭は謝辞の最後に、理解し支えにくれた母親と夫人に、心よりの感謝を伝えた。

金祝
 シスター高橋 順子
 (聖霊奉侍布教修道女会)
 人間は人生の途上で、いろいろな問いかけを頂きます。「私を誰と認めますか、人間は死で終わりますか」。私が置かれた状況の出来事の中で偉大な方が、わたしに問いかけてくださいました。その出来事を通して新しいのちの出会いをいただきました。

金祝
 成田 友子
 (聖マリア在俗会)
 人のために何かをした、人のために役立ちたい、それは大切なことですが、ふと立ち止まった時、自分はどう生きたいのか、キリストに倣うもの、従う者として、日常生活の中で、イエスを示した母マリアのように生きたい。多くの人の関わり、何時もマリア様だったらどう感じ、どのように手を差し伸べたか



使徒ヨハネ早川和彦さんの 終身助祭叙階式

使徒ヨハネ早川和彦さんの終身助祭叙階の儀が福音朗読の後行われた。松浦司教は説教で、助祭の歴史に触れ、第2バチカン公會議以降、終身助祭の役割が積極的に始められたと説いた。再び大切にされるようになった

司祭、修道者、奉獻生活者の金銀祝を祝う集いが3月20日、布池教会で開かれた。また、ミサの中で終身助祭の叙階式が荘厳に執り行われた。聖堂は参列者で満席だった。

15人の侍者と3人の終身助祭、30人の司祭団に続いて、野村名誉司教、松浦司教の入室でミサが始まった。

助祭叙階式の儀をばさむミサが滞りなく執り行われると、最後に金銀祝を迎えた司祭、修道者、奉獻生活者に花一輪が手渡された。代表してアーノルド・ブルム神父(神言会)があいさつに立った。「新助祭が生まれたこと、このように多くの人たちが共に祝えることは本当に喜びです。本堂にありがとうございませした。神様にいろいろ支えてもらい、50年が過ぎることができました。司

西脇 良神父
 「神は曲がった線です。真つ直ぐに描く」司祭叙階後数年で味わった挫折。その時、立ち上がる勇気を私に与えてくれた言葉です。あの挫折がなければ、今の私もありません。曲がった線です。真つ直ぐに描かれる神さまに感謝。

金祝
 シスター湯沢 昌子
 (聖霊奉侍布教修道女会)
 神様の慈しみに支えられてきたながらの誓願生活50年。この間すべては名古屋教区でお世話になりました。長い修道生活の歩みを通してエコーのように心深く浮かぶことは「出来事に無駄はない」という思いです。それらの出来事によって自分の限界、小ささを自覚させていただきました。そして祈ることを促されました。

金祝
 シスター高橋 順子
 (聖霊奉侍布教修道女会)
 人間は人生の途上で、いろいろな問いかけを頂きます。「私を誰と認めますか、人間は死で終わりますか」。私が置かれた状況の出来事の中で偉大な方が、わたしに問いかけてくださいました。その出来事を通して新しいのちの出会いをいただきました。

金祝
 成田 友子
 (聖マリア在俗会)
 人のために何かをした、人のために役立ちたい、それは大切なことですが、ふと立ち止まった時、自分はどう生きたいのか、キリストに倣うもの、従う者として、日常生活の中で、イエスを示した母マリアのように生きたい。多くの人の関わり、何時もマリア様だったらどう感じ、どのように手を差し伸べたか

東海地区・一粒会の集いのご案内

日時 6月25日(日) 14:00~16:30
 場所 カトリック各務原教会
 岐阜県各務原市三井北町1-261 電話: 058-371-5499
 内容 前半: 講演 片岡義博神父
 「誰がその人の隣人になったと思うか」
 後半: 司教様とともに捧げるミサ
 会員以外の方も是非ご参加ください。

「一から言葉を学び…」

インドネシアの2人、司祭に

アルフォンス・アフ・サレタ。共にインドネシア・デイエゲル師写真ア人。叙階式のミサはインドネシアの音楽で始まり、写真右が3月18日、南山教会にて松浦悟郎司教主司式のもと司祭に叙階



め約80人の司祭が共同司式をした。松浦司教は訓話で、二人に向かつて、「寒い寒い冬がある日本に来て、一から言葉を学び、勉強し、そして、難しい論文を日本語で書いて卒業するという、そのような努力を一生懸命してきました。神様の導きと同時に二人が応え続け努力したこと、本当によくがんばったな、と思います」と二人のこれまでの地道な努力を称えた。

ミサの最後に、二人の新司祭が流暢な日本語で謝辞を述べた。司祭に叙階され、神様と共に歩んで行く決意をそれぞれの言葉で表した。

ミサ後、ホールで祝賀会が開かれ、インドネシアから駆けつけた新司祭二人の家族や多くの信者たちが二人の門出を喜び祝った。

「助祭の教会の奉仕」

「なんだろう？」



「教会ってなんだろ 仕について考えよう」
う？〜みんな教会の奉と名古屋教区青少年司牧部主催による子どものための企画が3月20日、終身助祭叙階式に先立って布池教会聖堂で開かれた。はじめに片岡義博神父(富山教会)が「終身助祭」について詳しく説明した。

「終身助祭」という言葉はあまり聞きなれないことばですね。司祭(神父さま)とどこがちがうのでしょうか？ 助祭とは、本来「司教さまにお仕えする人」のことをいいます。その役割には、大きく分けて三つあります。一つは「みことばへの奉仕」、二つ目は「典礼への奉仕」、三つ目は「愛の奉仕」と言われています。ミサの司式はできませんが、ミサで福音書の朗読や説教をしたり、聖体拝領をお手伝いしたりすることができ、洗礼式や結婚式の司式をしたり、神父さまたちを助けるために教会の

『知っていますか？』

外国人技能実習生

人権侵害の実態を詳しく報告



外国人技能実習生について学ぶセミナーが2月25日、城北橋教会で開かれた。主催は日本カトリック難民移住移動者委員会。移住者や外国籍の人たちのために第一線で取り組んでいる鳥井一平さん(移住者と連帯する全国ネットワーク代表理事)(写真)が外国人技能実習生について講演した。日本各地からの参加者もあり、約200人が傾聴した。

近年、日本は人口減少で人手不足となり、移民労働者が増え、現在、中国やベトナムなどアジア諸国から約20万人の「外国人技能実習生」が来日している。『外国人技能実習制度』は、途上国への技術移転という「国際貢献」を制度の目的と定めているが、実際には日本人の人手不足を支える安価な労働力となっている。

鳥井さんはこの制度の経緯と、技能実習生の上で起きている人権侵害の実態を報告した。時給300円、5万円の基本給、人身売買、セクハラ、暴力、奴隷労働、強制帰国、タコ部屋、女工哀史、群がり食いものにするプローカー、保証金制度、邪悪な欲望に変貌する社長、権利を主張すると即解雇などを挙げた。

365日働いているのに、いろいろ差し引かれて手元にはわずかなお金しか残らない、3年経つと帰国しなければならぬ使い捨てのローテーション労働、権利を主張したら即解雇で強制帰国、普通のやさしそうな顔をした社長が驚くようなセクハラをすることもできます。今日から、名古屋教区の終身助祭は四人になります。これから教会を支え、大切な奉仕をしてください。早川和彦さんのために叙階式が行われる今日のミサ中で皆さんと一緒に祈りましょう。

引き続き「教会ってなんだろう？」「奉仕ってなんだろう？」をテーマに、小さな教会に住む一人の神父と猫の話が紹介された。「そうか、教会って何となく、ぬくぬくしたところなんだ」と、ミニ劇を通して子どもたちもみな納得顔だった。

鳥井さんは「人口減少社会を外国人で穴埋めにするという考え方は絶対問題」と言い、「事実を直視した真つ当な移民対策が大事」と訴えた。そして、「これからの社会は、労働対等原則が担保された、違いを尊重しあう多民族・多文化共生社会。これが大きな力となっていく。一緒にやっていくことです」と力強く語った。

みことばの祭儀と各教区からの事例報告の後、松浦悟郎司教(日本カトリック難民移住移動者委員会委員長)があいさつに立った。まず、司教は「今日は、鳥井さんたちやさまざまな組合や

NP0の人たちと連携していくための顔と顔をつなぐ、生きたネットワークの場でもあった」と述べた後、外国人実習制度の表面向きと実態が離れていることの問題を挙げた。雇っている社長やたぐさんの日本人は「それなりにいいことをしている、いい制度ではないか」と思っているかもしれない。しかし、怖さというものは、怖いところにある」と指摘。もうひとつの問題は「この制度は国が損をしないよう、儲けることが出来るように作っているため、この制度が変わらない限り、人権侵害は変わらない」と、制度の問題を訴えた。また司教は「この法律の背後にある思想や考え方が実は戦前から続いているものとひとつも変わっていない」と、日本国憲法スタート前に成立させた「外国人登録令」に触れた。これは外国人を管理するためのもの。そして、最後に、「この国が開かれた国になり、皆が一緒に暮らせるようになった上に、法律がどんな変わっていくよう一緒に祈りながら歩んでいく」と励ましと希望のことばで結んだ。

がん研究の先駆者、吉田富三(元癌研究会癌研究所長・東大教授・佐々木研究所所長)の「がん学」と政治学者・南原繁(戦後の初代東大総長)の「政治哲学」を一つにした合成語だ。

「がん哲学外来」は、生きることに根源的な意味を考へようとしている患者と、がん細胞の発生と成長に哲学的意味を見出そうとする病理学者の出会いの場なのである。

その出会いに、まわりの人々も共存する「がん哲学外来カフェ」は、お茶を飲みながら、患者とその家族、友人や何らかのかかわりある人たちが、皆でその思いや考え、感情を自由に分かち合う場所である。

樋野さんはこのカフェを巡回し、患者と個人面接をしている。そして、「昔の元氣な自分より、いまの自分が最高」「あなたはその間にいるだけで価値ある存在」という言葉の処方箋を与え、患者とその家族を勇気づけている。

(聖霊病院カトリック社会事業室・村木)

「がん哲学外来カフェ」を

わたしたちのまわりに



第12回ホスピス聖霊講演会が1月14日、聖霊病院聖霊ホールで開かれた。「明日この世を去るをあげなさい」を演題に、順天堂大学医学部病理・腫瘍学教授で一般社団法人がん哲学外来理事長、樋野興夫さんを講師に迎え、160人を超える参加者が集った。

樋野さんは、科学としての「がん学」を学びながら、哲学的な考え方を取り入れてがんを考へ、医療現場と患者の間の隙間を埋めようとする「がん哲学外来」創設者。その一番のメッセージは「が

「がん学とは、がんに関する学問で、その形態、起源、進展などを追及する学問分野である。これはがん研究者だけのものではなく、一般社会の人々のための学問でもある」

「がんをどのように考へるかとても大切なこと。がんに対する概念が、世界観、人生観、ひいては日常の決定や行動をも決定する。がんの起源と進展を学ぶことは、人生の意義の目的を「静思」することへと導くものと考えられる」

がん哲学について樋野さんはこう話す。「がん哲学」の語は、

新しい年、分裂の世界に一致を！

「がん哲学」の語は、

「震災を忘れない」 3.11ミサ、講話、被災地支援物品販売など

2011年3月11日午後2時46分、東日本大震災。あれから6年経った。3月11日、布池教会で東日本大震災・福島原発事故の犠牲者追悼・復興祈願ミサが開かれた。聖堂に入り切れないほどの参加者が被災者と心を合わせて祈りをささげた。



狩浦神父の講演要旨

大震災の時、がれきが、ありとあらゆる物が、山や川や大地に留まり、そこには多くの方たちが埋れず、原町教会への出向へと至った。



原町は福島第一原発から20〜30キロメートル離れている。その日まで住民たちには、長い時間をかけて育んで来た人々との関わりや生活があった。

避難した人たちは戻ってくるのも大変だ。自主避難をした人たちの状況を

「総死者2万1969人の一人一人に、家族、友人、愛する人がいて、何十倍の悲しみがある」と残された者たちへの共感を示した。

「避難した人たちが何らかの意図を持った政策によって未来が閉ざされ、さらに追いやられていくとするならば、私たちにも責任がある」と力を込め、原発事故後に年々自殺者が増加していること、自主避難の人たちの賠償が3月末で打ち

「制限のないエネルギーの消費によって豊かな生活を得ようとする私たちの生活の姿勢を問い、今日3月11日に、私たち自身の生き方を通して震災

「地下ホール入口では正義と平和委員会とカリタス南相馬(旧原町ベース)スタッフが、被災地の現状を伝えようと写真などを展示した。

「この結果、県外に出て行った人たちがいた。いじめはそういう中で起こってくる。県外に自主

「避難した人たちは戻ってくるのも大変だ。自主避難をした人たちの状況を

「避難した人たちは戻ってくるのも大変だ。自主避難をした人たちの状況を

「避難した人たちは戻ってくるのも大変だ。自主避難をした人たちの状況を



西脇純神父とスコラ・カントールムの皆さん



東日本大震災・災害支援金の報告

社会福祉委員会

発災時より社会福祉委員会へ振込まれた支援金を下記の通りご報告いたします。暖かいご支援に心より感謝いたします!!

(振込手数料引去後の金額)

項目	2011.3.17 発災から 2017.2.28までの合計		2011.3.17 発災から 2017.3.31までの合計	
		単月明細 3/1~3/31		
収入				
支援金総額	27,081,120	(※1) 748,581		27,829,701
収入合計	27,081,120	748,581		27,829,701
支出				
カリタスジャパンへ	9,544,038	1,091,329		10,635,367
さいたま教区	1,000,000	0		1,000,000
カリタス南相馬(旧・原町ベース)		1,159,450		1,159,450
福島移住女性支援ネットワーク		290,000		290,000
大船渡プロジェクト支援	13,156,234	800,000		13,956,234
ベースへ車いす4台贈呈	123,200	0		123,200
ベースへピアノ贈呈	58,800	0		58,800
オールジャパン会議交通費	123,620	0		123,620
支援ボランティア交通費	471,150	10,000		481,150
支出合計	24,477,042	3,350,779		27,827,821
単月・支援金残高	2,604,078	-2,602,198		1,880
支援金残高合計				1,880

★名古屋教区は

「カリタス大船渡ベース・地ノ森いこいの家」とカリタス米川ベース NPO 法人「障がい者自立センターかまいし」を応援中、2017年3月からはカリタス南相馬(旧・原町ベース)、カリタスジャパン(東日本大震災募金)の応援もしていきます。引き続き皆様のご支援、ご協力をお願い致します。

★支援金振込先

郵便振替用紙にて
口座番号 00880-6-1628
名義 カトリック名古屋教区社会福祉委員会
「東日本大震災・災害支援金」と記入願います。

★名古屋教区主催 3月11日

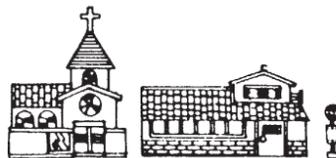
「東日本大震災・福島原発事故 犠牲者追悼・復興祈願の日」
でのお祈り、ご支援、ボランティアご協力に心より感謝申し上げます。

(※1) 3月度に支援金のご協力いただいた小教区・個人(敬称)

江場仁美
鳴海教会、布池教会
金沢教会、平針教会
岡崎教会

ご連絡・問合せ先
社会福祉委員会
電話 052-852-1426
FAX 052-852-1422

聖カトリック女子高等学校生徒が 東日本大震災募金活動



東日本大震災6年目を迎えた3月11日、本校34人の生徒たちが栄の三越付近3カ所で被災者の方々のために募金活動を行いました。被災者の方々のために少しでも役に立てばという思いと、震災を風化させたくない思いで実施しました。

寒風が吹き肌寒い一日でしたが、多くの方が私たちの呼びかけに足を止め、「ああ、今日は大震災が起きた日だった」と思い出し、募金してくだ

カトリック 津島教会 献堂 40周年を祝う

カトリック津島教会 日に津島教会で行われ堂40周年を記念して、感謝ミサと祝賀会が3月12日 宮教会の参加もえて、松浦悟郎司教が主司式、谷上勝主任神父が共同司式をした。

津島教会は1964年から津島市内の洋服店にて「カトリック研究所」の名称でスカボロ外国宣教会の宣教師たちと神言神学院生の指導のもと、公教要理とミサが行われ宣教活動が始まった。

14年目の77年にガイヤー神父が初代主任司祭となり、津島駅より約8分の現地に津島教会が献堂されて、宣教活動が充実した。ガイヤー神父の帰天後、谷上勝神父が赴任し20年で献堂40周年を祝うことができた。

松浦司教は「四旬節中ですので紫の祭服で行うところを、本日はイエス様が復活を示したように、白の祭服で献堂40周年を感謝しお祝いします」と話された。ミサ後祝賀会が行われ、最後には松浦司教のオルガン伴奏で「ふるさと」を皆で歌って、皆の信仰を強めることができた。

(津島教会 桑村信人)



2017/03/12

全小教区にアンケート… 力障連

孤立する障害者を見つけて

日本カトリック障害者連絡協議会(カ障連/江戸徹会長)は、全国各地に点在するカトリック信者の障害者の状況を把握するため、3月28日から全小教区を対象に第1回アンケート調査を実施する。初のアンケートは、記述式も含めて全9問

「者はいない」という声がよく聞かれるが、実際は、障害者が教会に行くことができないため、「存在が見えていない」のが実情だという。当事者が教会に行けない理由は、(1)教会に階段や段差が多くて車いすが利用できない(2)手話がないからミサが理解できない(3)精神障害や発達障害への理解がなく、居心地が悪いなど、いろいろ推察される。カ障連の江戸会長はこ

う話す。「日本では、全人口の5・6%の人々に何らかの障害があるとされています。そう考えると、教会にも同じ割合で(外国籍を含む信徒10万人に対して5万6千人)障害者がいると思われれます。しかし、16教区の中でカ障連に加盟しているのは7教区だけなので、まずは、各小教区で現状を把握してもらい、孤立している障害者とながりたいと思います」

カ障連は、第1回アンケートの終了後も、継続的に小教区内で孤立している障害者を見つけ出し、声を掛け、教会やカ障連につなげていく活動を継続していく。アンケートに関する詳細は、電話052-852-11426(名古屋教区社会福祉委員会室内「カ障連事務局」)。(カト新ニュースレターより一部転載)

2017年度 南山大学キリスト教センター講座案内

曜日	時間	講座名(講師)	対象	教室	内容
月	14:00~16:00	墨を愉しむ(筆・ペン)(高山 和香) ※南山エクステンションカレッジ事業	学生・一般	ロゴスセンター No.12教室	「書く」「描く」個性豊かに実用から創作まで文字との一期一会。第1・3月曜日(変更もあり)
	17:00~18:30	スペイン語でバーモス(Vamos)!(暮林神父)	学生・一般	ロゴスセンター 図書室	スペイン語をある程度知っているみんなで、わいわい、がやがや、スペイン語でしゃべる時間です。ちょっとした言い回し、使ってみて通じるかな?というのをサポートしながら学んでいきましょう!
火	10:40~12:00	カトリック教会のカテキズム(枝村神父)	学生・一般	神言神学院 研究室	刷新された『カトリック教会のカテキズム』に準拠しながら、カトリックの教理を学び直し、日本文化におけるインカルチャーレーションについても考える。
	14:00~15:00	インドネシア語会話(Br. ジャスティン)	学生・一般	ロゴスセンター No.13教室	Membaca dan Berbicara Bahasa Indonesia. インドネシア語、読みと会話、そして音楽。
水	15:00~16:30	韓国語会話(李仁花)	学生・一般	ロゴスセンター No.12教室	韓国語の基礎をわかりやすく教えます。
	16:00~17:30	キリストの教え(石橋神父)	学生・一般	ロゴスセンター 図書室	「カトリック教会の教え(カテキズム)」または「カトリックの教え」と聖書にもとづいてキリストの教えについて語り合う。
	17:00~18:00	English Language (Antony Susai Raj 神父)	学生・一般	ロゴスセンター No.12教室	1. 基本的な文法 2. 日常会話 3. 英語の新聞の記事の読解
木	10:30~12:00	English Bible Reading (シーランド神父)	学生・一般	ロゴスセンター No.12教室	英語で新約聖書を読んでいます。毎週木曜日
	12:35~14:30	パイプオルガン講座(林 友香) ※南山エクステンションカレッジ事業	学生・一般	ロゴスセンター 地下聖堂	荘厳で祈りの響きを秘めた麗しのパイプオルガン… 聖なるアフタヌーンをご一緒に!(受講生はパイプオルガンで練習ができます)
	18:30~21:00	青年のためのキリスト教入門(暮林神父)	学生	ロゴスセンター 食堂、教室13	気のない仲間たちと一緒に歌や食事を交えながら、人生について、生き方について、キリスト教について問いかけてみる時間です。
金	10:40~12:00	カトリック教会のカテキズム(枝村神父)	学生・一般	ロゴスセンター No.12教室	刷新された『カトリック教会のカテキズム』に準拠しながら、カトリックの教理を学び直し、日本文化におけるインカルチャーレーションについても考える。
	13:00~14:30	楽しいフランス語(荒木 優美子)	学生・一般	ロゴスセンター No.13教室	平易な読み物を通してフランス語とフランス文化をア・ラ・カルトで学びましょう。 ※初級文法(複合過去と半過去)を終了した方が対象
	15:00~20:00	和楽器講座 尺八:山田直人、箏・三味線:竹田和子 ※南山エクステンションカレッジ事業	学生・一般	ロゴスセンター No.12教室	尺八、箏、三味線(中竿)の体験・練習 上達すれば演奏会での発表あり ※講師の都合により事前に休講になる場合あり
土	11:00~12:00	Conversação em Português ポルトガル語 (Domingos de Sousa 神父)	学生・一般	ロゴスセンター No.12教室	日常的なトピックを題材にしつつ、ポルトガル語の文法と会話の基礎を学ぶ。
	18:00~20:00	グレゴリオ聖歌研究会(西脇 純)	学生 (他大生も歓迎)	ロゴスセンター 食堂又は12教室	西洋音楽の源泉といわれるグレゴリオ聖歌を、古ネウマ譜を用いて基礎から学びます。定期的な研究会の他に年5回 外部講師による勉強会も予定しています。第1・3土曜日(変更もあり)

※2017年4月よりロゴスセンターの名称が南山大学キリスト教センターに変更。なお建物の呼称はロゴスセンターのままです。
 ※南山エクステンションカレッジ事業として開講します。詳細についてはお問い合わせください。(TEL/FAX) 052-833-3110 (メール) christian-c@nanzan-u.ac.jp



西蟹田集会所開所ミサ

港教会の信徒によって開発された聖和住宅の一角にあった修道院と旧聖和センターを聖心会から寄贈された名古屋教区は、改修・整備をした上で、4月1日、西蟹田集会所としてオープンした。

修道院は屋根の補修・

西蟹田集会所開所ミサ

塗装をし、集会所は塗装を、駐車場、男女トイレ、障害者用トイレ、車椅子用の玄関スロープを整備して竣工した。

午後4時から松浦悟郎司教司式で行われた開所ミサには、港教会の山口正美神父、山野聖嗣神父も参加。聖和住宅居住の信者たちを始めとして50人ほどの信者が参列した。

松浦司教は、今後、ミサ、聖書研究会などで集会所が活用されるよう望んでいる。

カトリック名古屋教区西蟹田集会所(名古屋港区西蟹田1番地、1835番地)問合せは教区本部事務局まで。

ニケア・コンスタンチノープル信条(1)

詞曲 CBCJ

わたしは信じます。 ゆいいつのかみ、 ぜん能のちち、 てんと地、 見えるもの、 見えないもの、 すべてのものつくりぬしを。

わたしは信じます。 ゆいいつの主イエス・キリストを。 主はかみのひとり子、

「ニケア・コンスタンチノープル信条」「使徒信条」の楽譜を発表

日本カトリック典礼委員会は4月1日、「ニケア・コンスタンチノープル信条」と「使徒信条」の楽譜(会衆用・伴奏用)と歌唱サンプルを発表し、7日、カトリック中央協議会ウェブサイトに掲載した。解説「新しい旋律を用いるにあたって」と共にダウンロードして利用できる。4月16日の復活の主日から使用するものとしている。

旋律はそれぞれ二つずつ発表された。(1)グレゴリオ聖歌の旋法・旋律を骨格としつつも日本語特有のアクセント・抑揚を重視した旋律と、(2)グレゴリオ聖歌に基づくことなく、わたしたちが日常耳にする長・短調の西洋音階に基づいて作曲された旋律だという。

これら信条の新しい口語訳は2003年度の日本司教協議会で認可され、歌うための旋律が長く待たれていたが、昨年度の臨時総会で認可された。

ウェブサイトに、<https://www.cbj-catholic.jp/2017/04/07/13650/>

日本カトリック司教協議会 列聖推進委員会から

福者ユスト高山右近 列福式ミサ公式記録 DVDのお知らせ

ユスト高山右近の列福式ミサが2月7日、大阪城ホールに教皇フランシスコ代理アンジェロ・アマート枢機卿を迎え、盛大に執り行われました。列福の記念を長く記憶に留め、その意義を後世に伝えるために、列福式の模様を納めた公式記録DVDを制作いたします。

列福式ミサを同時中継したときの解説を取録しています。列福式ミサの感動を、迫力ある映像と音響で体験できます。

DVD概要

- ・完全記録版2枚・ダイジェスト版1枚の計3枚のDVDディスク(パッケージ入り)永久保存版。
- ・列聖祈念募金に1件2千円以上のご寄付をいただいた希望者、先着2千名様に1セットずつ進呈。
- ・募金の振り込み用紙の通信欄に「列福式DVD希望」と明記し、送付先名・住所をお書きください。
- ・現品の発送は、4月下旬開始を予定しています。
- ・DVDの仕様、発送時期等は、都合により予告なく変更される場合があります。

列聖祈念募金は以下の要領で

・郵便振替番号:00160-1-483345 ・加入者名:(宗)カトリック中央協議会列福献金口

問合せ ☎03-5632-4445 FAX 03-5632-4465

神言神学院大聖堂 献堂50周年記念ミサ

日時 5月3日(水・祝) 16:00
場所 神言神学院 名古屋市昭和区八雲町70-9
司式 松浦悟郎司教
内容 神言神学院献堂50周年記念ミサと神言会 誓願・叙階 金銀祝
問合せ 神言神学院院長 レジモン・ヴァルギース ☎052-832-2082

難民移住移動者委員会の船員司牧(AOS) 名古屋で全国研修会

難民移住移動者委員会・船員司牧部門(AOS)の全国研修会が名古屋で開催されます。今回、全国参加される従事者の皆様に同伴して、司牧を担当する名古屋港を巡回する予定です。参加希望者は早めに申し込みください。詳細は次回の教区ニュースでお知らせします。

船員司牧(AOS)名古屋港研修コース
期日 7月7日(金) 13:30 カトリック港教会集合
巡回地 ガーデン埠頭、金城埠頭、展望台、コンテナターミナル
懇親会 希望者のみ 17:30 港教会
問合せ カトリック港教会 山口正美、全国担当司祭 名古屋市港区錦町25-17 ☎052-389-1841 メール my451106@lilac.ocn.ne.jp
主催 名古屋難民移住移動者 名古屋ステラマリス(AOS)

聖霊中学・高等学校 オーケストラ部の第16回定期演奏会

聖霊中学・高等学校のオーケストラ部による第16回定期演奏会が3月24日、愛知県芸術劇場コンサートホールで行われた。指揮はオーケストラ部顧問の高橋律也さん。プログラムは、「打楽器アンサンブルのステージ」としてジヴコヴィッチ「トリオ・パー・ウノ」など、「中学2年生を中心とするステージ」としてビゼー「アルルの女」より、「中学1年生を中心とするステージ」としてシベリウスの「カレリア」より、また、「中学3年生を中心とするステージ」ではグリーグ作曲のピアノ協奏曲イ短調、最終ステージは約70人のフルオーケストラでチャイコフスキー交響曲第5番だった。

アンコールはルロイ・アンダーソン作曲「舞踏会の美女」が演奏された。ピアノ協奏曲のピアノ独奏は聖霊中学校卒業生のピアニスト川添由梨香さんが好演した。

—あらゆる壁を越える教会をめざす中で—

2017年度名古屋教区 神言会・聖霊会 JPIC 勉強会シリーズ 「移民・移住者の司牧について」(全4回)

第1回 6月24日(土)「三河地区の移民・移住者の司牧について」
講演者:フリッツ神父 三河センター所長(神言会司祭)
:アントニー神父 安城教会主任(神言会司祭)

第2回 9月9日(土)「信徒の立場・視点から」
講演者:村上満一氏(三河カトリックセンターボランティア 安城教会信徒)

第3回 11月25日(土)「信徒の立場・視点から」
講演者:森永デイン氏(プロテスタント信徒)

第4回 2018年2月17日(土)「これからの移民・移住者の司牧について」
講演者:松浦悟郎司教(名古屋教区司教)

時間 13:30~15:30
場所 カトリック教区センター2階 名古屋市東区葵町2丁目6-35 地下鉄東山線 新栄町駅2番出口 北東へ徒歩5分
問合せ カトリック安城教会主任司祭 アントニー神父 ☎0566-98-7766
八事聖霊修道院 ☎052-832-0434 (Sr.武田)
主催 神言修道会・聖霊会 JPIC 委員会・名古屋教区正義と平和委員会

憲法9条を世界の宝に!!! 「ピース9の会」発足15周年記念 東海「ピース9の会」の集い

「すべての人の平和を願い 戦争をしない 軍隊を持たない この憲法9条を世界の宝に」

松浦悟郎司教さまを呼びかけ人として発足した「ピース9の会」が、今年5月3日で15周年を迎えます。それを記念して、「東海「ピース9の会」の集い」を下記要領にて開催します。

教育基本法改定、特定秘密保護法、解釈改憲に基づく安全保障法制、そして今は共謀罪と、日本は戦争のできる国へ進んでいるとも言われています。憲法9条改悪が国民投票にかけられる日には「反対」の意思表示をしようというピース9の会で、戦争と平和について、いっしょに学んだり考えたりしてみませんか!?

日時 5月3日(水・祝) 憲法記念日 10:00~12:00
場所 布池外語専門学校3階 コンコルディアホール(カトリック布池教会敷地内)
お話し 松浦悟郎司教 参加費 無料。どなたでも参加自由です。
その他 各ピース9の会の活動報告、分かち合いなど。会場で本会開催費用のカンパをお願いします。(自由献金)
問合せ ☎0568-92-5895 山口(高蔵寺教会・ピース9の会「つなぐ」)
主催 東海「ピース9の会」の集い実行委員会・ピース9発足15周年実行委員会

集いの後、松浦司教様と共に、ぜひ集いにも参加しましょう。

《憲法施行70周年記念 市民のつどい「70年目に問う憲法のいま」》

日時 5月3日(水・祝) 憲法記念日 13:00~16:00
場所 名古屋国際会議場センチュリーホール
参加費 当日1600円(前売1300円=チケットぴあなど)
プログラム シンガーソングライター・きたがわてつ コンサート&丹羽宇一郎講演会「激動の世界の中 一国の行方を憂う」(元中国大使・前伊藤忠商事会長・日中友好協会会長)
主催 愛知憲法会議 後援 名古屋市

めぐみカン ガンバレ!!



- 5月の教会暦**
- 2日(火) 聖アタナシオ司教教会博士(記)
 - 3日(水) 祝聖フィリポ聖ヤコブ使徒(祝)
 - 7日(日) 復活節第4主日
 - 14日(日) 復活節第5主日
 - 21日(日) 復活節第6主日
 - 26日(金) 世界広報の日(献金)
 - 28日(日) 聖フィリポ・ネリ司教(記)
 - 31日(水) 聖母の訪問(祝)
- 6月の主な教会暦(主日・祭日など)**
- 4日(日) 聖霊降臨の主日(祭)
 - 11日(日) 三位一体の主日(祭)
 - 18日(日) キリストの聖体(祭)
 - 23日(金) イエスの心(祭)
 - 24日(土) 洗礼者聖ヨハネの誕生(祭)
 - 25日(日) 年間第12主日
 - 29日(木) 聖ペトロ使徒への献金
 - 29日(木) 聖ペトロ使徒への献金

- 5月**
- 7日(日) 司祭生活費支給制度説明会(東海地区)*
 - 8日(月) 北陸ブロック司祭会議*
 - 9日(火) 樹の会
 - 10日(水) 社会福祉委員会
 - 13日(土) 共助連絡会
 - 14日(日) 三河B会議/教区中高生会
 - 20日(土) 正義と平和学習会/樹の会
 - 21日(日) 総会*/レジオ名古屋クリ
- 5月**
- 27日(土) 南山中学・高校育友会 講演会
 - 15日(月) 南山中学・ABC会議
 - 11日(木) 司教常任委員会、社会司教委員会
 - 10日(水) 難民移住移動者委員会
 - 26日(日) 一粒会の集い(東海地区)*
 - 25日(日) 教区司祭の集い*
 - 22日(木) 司祭評議会*
 - 24日(土) 典礼委員会
 - 18日(日) 東海教会堅信式*/愛岐B会議/青年委員会
 - 17日(土) 司祭月集*
 - 15日(木) 正義と平和委「故アロイジオ相馬司教記念シンポジウム」/共助連絡会総会/レジオ名古屋クリア黙想会
 - 13日(火) 松浦司教着座記念日/樹の会
 - 11日(日) 教区中高生会
 - 10日(土) 信徒協理事會
 - 8日(木) 教区顧問会*
 - 7日(水) 社会福祉委員会
 - 4日(日) 城北ブロック堅信式(布池教会)*/宣教司牧評議会
 - 3日(土) 濃尾B会議
 - 28日(日) 金沢教会堅信式*/愛岐B兄弟の集い
 - 27日(土) 教区法人評議会*/典礼委員会
 - 25日(木) 教区顧問会*/司祭月集*
 - 25日(木) 委員会
 - 29日(月) 会/インターナショナルミサ・こどもの集い*/青年委員会

南山中学・高等学校育友会主催 春の講演会

日時 5月27日(土) 14:00~15:30
 場所 南山学園講堂(昭和区五軒家町6番地)
 講師 カトリック名古屋教区長 松浦悟郎司教
 演題 人間の幸福への道
 内容 人間は誰もが幸福になりたいと望み、そこに至るであろう道を生きています。そして、子供たちにもその道を歩ませています。しかし、何が真の幸福かは、「人間とは何か」という根本的な問いと深く関わっているはず。人間の具体的な現実を紹介しながら、この問題をお話したいと思います。

問合せ 南山男子部事務室 052-831-6455

告知板

29日(月) 子どもと女性の権利擁護のためのデスク
 30日(火) 南山学園評議員会
 1日(木) 常任司教委員会
 13日(火) AOS全国会議
 17日(土) 移住連(福井)
 福信館便り ☎052(935)7180
 ◇5月の炊き出し 木 4日布池
 11日東海・樹の会・南山、18日聖霊・樹の会・南山、25日城北橋 金 5
 日喜望の会、12日一宮、19日布池、26日長浦

565件 28,488,695円
 目標額 40,000,000円 (3月末)

建設費の返済に協力を

郵便振替 00810-5-50605
 加入者名 カトリック名古屋教区
 通信欄に「福信館建設」と必ずご記入ください。

新刊案内
 粕谷甲一神父講話集第8巻
「キリスト教とは何か⑧」
 新しい霊性を求めて」
 女子パウロ会 定価 1,296円

キリスト教徒だけではなく、すべての人に通じる新しい霊性とは何か。その新しい霊性をどのように育ていけるか。神の存在が自明的でない人にも通じる方法で、神と出会い、それを深め、活気づけていく方法を紹介している。

子どもとともにささげる
名古屋教区インターナショナルミサ
International Mass with Children
 テーマ 「神さまの作った世界～ホーム～」

日時 5月21日(日) 14:00~ ミサ後、パーティー
 場所 カトリック南山教会 名古屋市昭和区南山町1
 (地下鉄鶴舞線「いりな駅」下車徒歩5分)
 司式 ミカエル松浦悟郎司教
 主催 教区難民移住移動者委員会
 共催 教会学校教師会
 問合せ ☎052-953-9480

《2017年 名古屋一日静修》

三位一体の聖エリザベトの祈り

—現代人へのメッセージ—

日時 5月20日(土) 10:00~16:00
 講師 須沢かおり氏 (ノートルダム清心女子大学 教授)
 「わたしは、光へ、愛へ、命へ行きます」
 場所 カトリック日比野教会 信徒会館
 (地下鉄・名城線日比野駅下車 徒歩約5分)
 参加費 1,000円
 持ち物 聖書、ロザリオ、筆記用具、お弁当

申込み 下記いずれかの方法でお申込み下さい。
 FAX / 0568-62-5167 E-mail / seisyuu_2015@yahoo.co.jp
 ハガキ / 〒484-0076 犬山市橋爪一丁目1-26 「名古屋一日静修」係

2017年度日程と講師「テーマ」	プログラム
7月17日(月) 松田浩一神父 「父と子と聖霊の唯一の神を信じて生きる—三位一体のエリザベトと共に—」	9:45 受付 10:00 導入の祈り(聖堂) 10:20 第一講話(信徒会館) 11:30 念 祷* 12:00 昼 食(信徒会館) 12:30 念 祷* 13:00 第二講話 14:00 念 祷 14:30 ミ サ(聖堂) 15:30 茶話会(信徒会館) 16:00 終了の祈り
9月23日(土) 片山はるひ氏 「エリザベトと共に生きる—永遠の光のもとで—」	*希望者は赦しの秘跡または面接を受ける事ができます
11月25日(土) Sr. ポーリン・フェルナンデス 「三位一体のエリザベトによる『聖書に基づくキリスト中心の生活』」	

主催 跣足カルメル修道会 / 協賛 カルメル在世会

聖パウロ女子修道会(聖パウロ書院)からお知らせ

「ロザリオの祈り」

修道院のチャペルで、シスターたちと一緒に「ロザリオの祈り」をしませんか。
 どなたでもご自由に参加できます。
 日時 5月14日(日)、6月11日(日)、7月9日(日) 14:00~(40分程度です)

「読書会」

書籍『キリスト教とは何か② 救われるのは誰か』を使います。
 日時 5月13日(土)、6月17日(土)、7月15日(土) 14:00~15:30迄 1章行いますのでどこからでも参加できます。
 場所 いずれも聖パウロ書院
 対象者 どなたでも参加できます。
 問合せ ☎052-936-4443 担当・Sr 永峰、Sr 森

名古屋マック支援春のバザー

献品にご協力を!

日時 5月14日(日) 10:15~13:30
 場所 カトリック五反城教会
 名古屋市中央区二瀬町27
 問合せ 名古屋マック ☎052-912-5508
 五反城教会 ☎052-412-3456
 連絡 駐車場はありません。公共交通機関をご利用ください。
 品物をご寄付ください。教会で集めて頂き、連絡をくだされば取りに伺います。
 主催 名古屋マック支援バザー実行委員会
 連絡先は河村 ☎052-409-6565

名古屋教区カトリック女性の会

いつき かい
「樹の会」総会&講演会のご案内
 講演 松浦司教 演題 「絆」

《総会》
 日時 5月20日(土) 13:00~13:40 (受付:12:30)
 場所 カトリック南山教会マリア館2F ホール
 (地下鉄鶴舞線 いりな駅下車②番出口 徒歩7分)

《創立10周年記念 講演会》
 日時 5月20日(土) 14:00~16:00 (受付:13:40)
 場所 カトリック南山教会マリア館2F ホール
 講師 名古屋教区長 松浦悟郎司教
 演題 『絆』—神の愛を共に生きる—

「樹の会」は、名古屋教区の唯一の活動する女性の団体として、2006年に司教認可を受けてから、今年で10周年を迎えました。これまでの集大成として、松浦悟郎司教様をお迎えして、記念講演会を開催します。女性としての使命を果たす為の知恵とパワーを頂く講話ですので、どなたでもお気軽にご参加下さい。

☆手話通訳あり。講演会には、学生・若い方・男性の出席も歓迎です。(会費:無料)
 ☆公共交通機関でお出かけください。
 ☆連絡先:「樹の会」事務局
 (☎090-9172-4947 深堀)